



の紹介、また理研創発物性科学研究センターの十倉好紀センター長による挨拶の後、参加者間での懇親を深めた。なおバンケット時に、次回の APCTP Workshop on Multiferroics が Prof. Chan-Ho Yang(KAIST)を議長として 2018 年 11 月に韓国の大田にて開催されることが宣言された。最終日の 3 日目のすべてのセッションが終了した後に、Closing Session が開催され、実行委員長である本提案代表者より、ワークショップ全般が滞りなく進行したことに対して参加者への感謝の意が表され、閉会が宣言された。さらに閉会后、海外から参加の希望者に対し物性研の施設見学を実施し、国際超強磁場科学研究施設を徳永将史准教授に、極限コヒーレント光科学研究センターを辛埴教授に案内いただいた。すべての施設見学参加者から一様に、充実した物性研施設に対する感嘆の声が聞かれた。

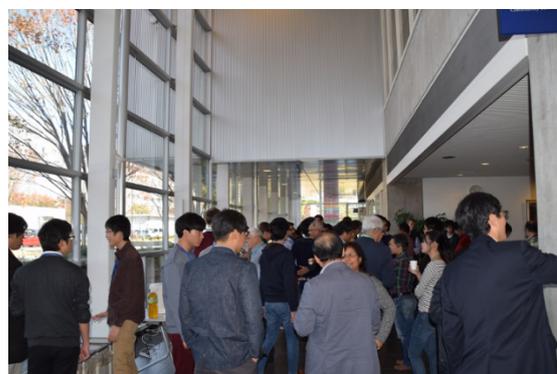
3 日間の開催期間において、23 名の招待講演者および 6 名の一般参加者(内 4 名は日本のポスドク・助教といった若手研究者)による口頭発表セッション、主に大学院生や若手研究者ら一般参加者によるポスター発表セッション[ポスター発表 55 件(当日不参加の 3 件を除く)]、さらには対象研究分野の今後の方向性を議論する場とし RUMP

セッションを実施した。会議の参加者数は、国内から参加の 68 名に加えて、海外から 41 名[韓国 11 名、中国 5 名、台湾 4 名、インド 7 名、オーストラリア 2 名、米国 2 名(内 1 名はテレビ会議にて参加)、スイス(5 名)、ドイツ(1 名)、チェコ(2 名)、オランダ(1 名)]であった。もともとアジア太平洋地域の研究者を対象としたワークショップであったが、今回の会議では招待講演者のみならず一般参加者としても複数のヨーロッパの国から参加者がおり、ワークショップの規模としては年々 world-wide なものとなっていることが認識できた。

会議終了後、国内外の複数の参加者から、本ワークショップの期間中に新たな人脈ができ、新たな共同研究へ発展させられそうであるなどのコメントが寄せられた。また、国内外の大学院生など若手研究者に対する旅費等の支援も行ったことに対して、該当者からの謝意も寄せられた。最後に、本ワークショップの実施に際し、提案者らの研究室のスタッフおよび学生さらには、物性研事務部の方など多くの方々からご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



口頭発表セッション(柏図書館メディアホール)



コーヒープレーク(柏図書館ロビー)

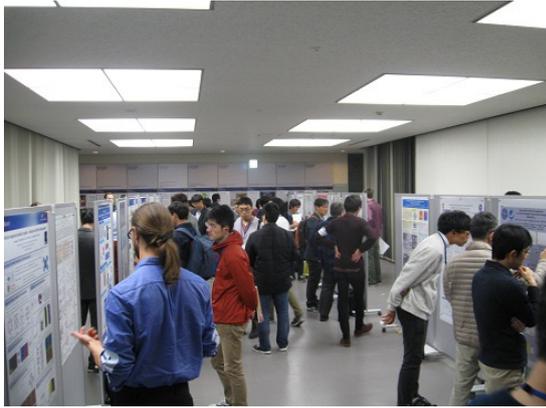


口頭発表セッション(柏図書館メディアホール)



口頭発表セッション(物性研大会議室)





ポスターセッション(物性研 6 階ホール)



RUMP セッション(カフェテリア)



集合写真